

大草谷津田いきものの里 自然観察会

「千葉市社会福祉協議会主催観察会」実施報告書

山岸文子（千葉市）

日 時：2011年10月9日（日）10:10～13:00 天候 曇りのち晴

主 催：千葉市社会福祉協議会 御成台 千城台西 北地区部会

参加者：13名（大人7名 子ども6名）

担当指導員：松本美千代 山岸文子 他2名

殆んどの参加者が大草は初めて。まず大草の成り立ちと注意事項を説明。スズメバチの被害防止の為、指導員2名に応援を要請。今日の道順と資料を配った後、大草にどんな生き物がいるか絵を見て貰う。

駐車場法面のへんてこなキノコ、ツマミタケから観察スタート。スズメガの蛹、エンマコオロギ、オンブバッタ、カナヘビ・・・子ども達は次々に見つける。アリジゴク、ヒダリマキマイマイ、足元にオオヒラタシデムシ、スギの幹にイラガの幼虫。触っちゃダメよ。

めじろんば を右に折れて山道を登る。モグラの通った跡。

タイアザミ、ヒメキンミズヒキ、ヒヨドリバナ・・・

花いっぱいの広場でハラナガツチバチ、ツマグロオオヨコバイ（バナナ虫）。杉林に入ったところでイシノミ発見。翅の無い原始的な昆虫。事前に見つけておいたコクワガタ♂を見せる。やはり子ども達には大人気。成虫のまま冬を越して3年位は生きる。♀も近くの幹にいた。緑色の線にしか見えないオナガグモ、霧吹きして手足（？）が動き出すと皆大ウケ。毎度観察会には欠かせない役者。シラカシの葉裏にムモンホソアシナガバチの巣。カケス、モズの鳴き声。

下ノ畠（したんばたけ）では高い木の枝にジョロウグモの巣。低いところにウズグモ、中間の混み合った葉の間にタナグモと棲み分けている。地面に落ちた枯枝にカワラタケやカイガラタケが多く見られる。キノコが枯枝や落葉を分解して土に戻す役割をしている。ゴミムシの仲間らしいが虹色に輝く虫を見つけ嬉しそうな女の子。

100段の階段を降りて加入谷（かにゅうやつ）へ。ムラサキシキブが色付き始めた。コバノガマズミの真赤な実がきれい。稻のオダ掛けの間を通り木のベンチの所へ。

全員がおむすびとお茶だけという質素なお弁当に驚いた。でもこれで良いのだ。お金を掛けるだけがレクリエーションでは無い。地域の大人が協力して子どもを見守る。子育てを手助けする・・・そういう姿勢が見えて嬉しくなった。

草笛で一緒に遊んだあと、キツネノエフデと小さなヤマカガシがニヨロニヨロするのを見て広場へ。

今日の感想を訊いてみた。日々に「楽しかった」 そうよね。その一言に尽きるよね。また一緒に遊んでねっ。



【大草に居ないのはどれでしょう】